



香港株式市場フラッシュ

台湾資本の中国大手食品・飲料品メーカー3社

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2022年9月21日号(9月21日作成)

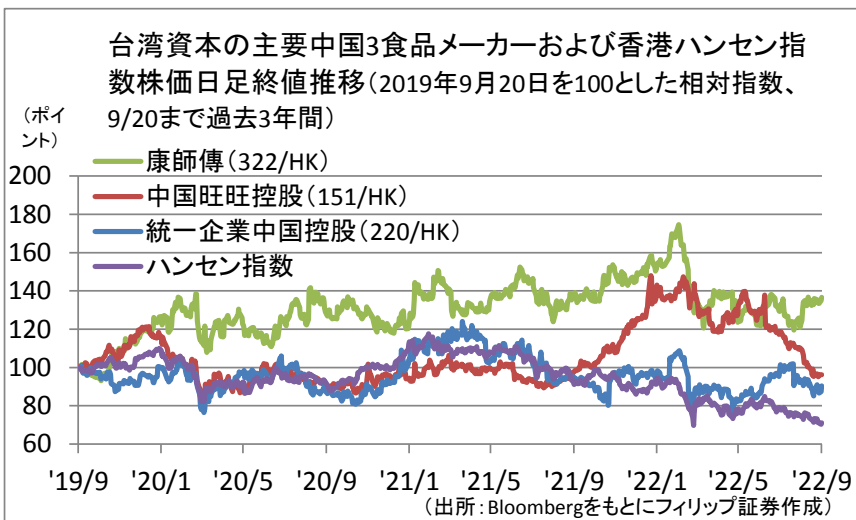
“台湾資本の中国大手食品・飲料品メーカー3社”

香港株式市場フラッシュ2022年8月10日号「日本企業と関係が深い中国大手食品メーカー2社」として、中国旺旺集団[ワンワン・ホールディングス](151/HK)と康師傅・カンシーフ(322/HK)の2社を取り上げた。両社ともに台湾資本であるなか、もう1社、中国で事業を展開する台湾資本の大手食品メーカーとして統一企業中国控股[ユニ・ブレジデント・チャイナ](220/HK)がある。

統一企業グループは台湾の食品製造・食品加工・流通・小売りなどのグループ企業で台湾国内の食品関連・流通企業では最大手。グループ会社の統一超商(台湾セブン・イレブン)は2000年に米国セブンイレブンから永久ライセンスを取得して2021年末時点で約6400店舗のセブンイレブン・ブランドのコンビニエンス・ストアを台湾で展開している。台湾のプロ野球(中華職業棒球隊大聯盟)チームである「統一ライオンズ」も保有する。

統一企業中国控股は、中国本土の果汁飲料、即席麺事業などを展開し、飲料では果汁飲料の「鮮橙多」、茶飲料の「統一緑茶」、ボトルウォーターの「ALKAQUA」など、即席麺では「湯達人」「満漢大餐」「藤嬌」などのブランドを取り扱っている。中国市場でのシェアは、即席麺では康師傅に次いで2位、また、飲料市場では首位のコカコーラに次ぐ2位の座を康師傅や中国旺旺集団と争っている格好だ。

2022年1-6月期決算は、売上高が前年同期比7.2%増の139.39億元、営業利益が同30.9%減の7.31億元。売上構成比の59%を占める飲料部門が同4.9%増収、売上構成比39%を占める食品部門が同14.0%増収であるが、食品部門は営業赤字が前年同期から拡大しており、利益面では飲料部門に頼っている状況だ。康師傅や中国旺旺集団も飲料部門の全体の業績への寄与度が高まる傾向にあり、今後は飲料部門の競争激化が想定されよう。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全92銘柄)における終値の2021年末末騰落率

前回基準日: 20220906 基準日: 20220920

順位	2021年末末騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	中国神華能源 [チャイナ・シェンファ・エナジー]	52.1	1
2	中国海洋石油 [CNOOC]	34.3	2
3	中国海外発展 [チャイナ・オーバーシーズ・ランド&インベスト]	25.9	3
4	中国移動 [チャイナ・モバイル]	20.0	4
5	周大福珠寶集團 [チャウタイフックジュエリーグループ]	15.0	13
6	万洲国際 [WHグループ]	14.7	9
7	長江実業集團 [CKアセット・ホールディングス]	13.7	5
8	Budweiser Brewing Co APAC Lt	12.3	11
9	銀河娛樂 [ギャラクシー・エンターテインメント]	11.6	15
10	中国中信 [シティック]	10.8	7

順位	2021年末末騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
92	碧桂園控股 [カントリー・ガーデン・ホールディングス]	-68.5	91
91	SenseTime Group Inc (商湯集團)	-68.1	92
90	ビリビリ	-66.7	90
89	舜宇光学科技(集團) [サニー・オプティカル・テクノロジー]	-66.2	89
88	万国数拠服務 [GDSホールディングス]	-64.7	87
87	華虹半導体 [ファホン・セミコンダクター]	-62.7	85
86	申洲国際集團控股 [シェンジョウ・インターナショナルG]	-60.8	88
85	金蝶国際軟件集團 [キングディー・Int'lソフトウェア]	-53.5	83
84	小米集團 [シャオミ]	-52.6	84
83	萊明生物技術 [ウーシー・バイオロジクス・ケイマン]	-50.6	86

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2022年8-9月の中国主要経済指標】

- 9月9日(金)
 - ・8月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+2.7%、結果+2.5%
 - ・8月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回+4.2%、結果+2.3%
 - ・8月資金調達総額: 前回7561億元、結果2兆4300億元
 - ・8月新規人民元建て融資: 前回6790億元、結果1兆2500億元
 - ・8月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+12.0%、結果+12.2%
 - 9月16日(金)
 - ・8月小売売上高<前年同月比>: 前回+2.7%、結果+5.4%
 - ・8月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+3.8%、結果+4.2%
 - ・1-8月固定資産投資<前年同月比>: 前回+5.7%、結果+5.8%
 - ・1-8月不動産投資<前年同月比>: 前回▲6.4%、結果▲7.4%
 - ・8月住宅販売金額<前年同月比>: 前回▲31.4%、結果▲30.3%
 - ・8月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.11%、結果▲0.11%
 - 9月20日(火)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.65%、結果3.65%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回4.30%、結果4.30%
 - 9月27日(火)
 - ・1-8月工業利益<前年同期比>: 前回▲1.1%
 - 9月30日(金)
 - ・9月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.4
 - ・9月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回52.6
 - ・9月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.5
 - 10月7日(金)
 - ・9月外貨準備高: 前回3.054兆USD
 - 10月8日(土)
 - ・9月(財新)サービス部門購買担当者景気指数(PMI): 前回55.0
 - 10月14日(金)
 - ・9月貿易収支: 前回+793.9億USD
 - ・9月輸出<前年同月比>: 前回+7.1%
 - ・9月輸入<前年同月比>: 前回+0.3%
- (出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。